

[済州紀行①] サミル独立運動100周年

足立 龍枝

済州を極めようと思っても、なかなか課題が多く、それに仁川富平(ブピョン)の砲兵工廠も、博物館学芸員のおかげで、詳しくわかつてきたので続けていきたいし。

今回は済州2泊、富平3泊で出かけることにした。偶然、月末にも済州歴史ツアーに参加することができ、済州づいた3月だった。



今年は、三・一節・100周年記念にあたり、中でも済州朝天(チョチョン)の抗日運動はよく知られている。

2年前(2017年)のサミル節はソウルにいた。朴槿恵大統領が罷免された直後だった。前日、ロウソク集会に集まっていた人々の間を歩きまわり、近くで眺めた。翌1日朝、独立宣言書が公表されたタブコル公園に行ってみた。公園の横にステージが設けられ、当時を演劇で再現するリハーサル中だった。

2日には、吹田の小学校とも交流をしていた忠清南道論山市江景(カンギョン)で記念イベントがあると聞いていたので出かけた。町の北東端に位置する王女峰(ワンニョボン)の元江景神社跡に行った。小高い神社跡からは、下に錦江が見える。日本が百済に援軍を出したという「白村江の戦い」のあったところだと言われている。神社跡に向かっている人がいない。近づくと横断幕が張っており、インフルエンザA1が蔓延しているの

で、行事は取りやめになつたらしい。


2017.3.2 江景神社跡

駅まで辺りを見物しながら戻ろうとしたら、同年配ぐらいの女性がいっしょに行こう、送ってくれるという。おせっかいな年齢だと気が付いたが、女性の親切は忘れられない。この時から日本のキャンデーなどお土産をナップザックに入れて持ち歩くようになった。

今年の目的、済州「朝天(チョチョン)」の再現行事は、それまで小規模な地での運動だったが、1993年から現在のような大行事になっていった。

私は2003年に北九州小倉の夜間中学校生徒・スタッフの済州旅行に参加した。そのときの朝天出身の女性ガイドさんの分かり易い解説に引き込まれた。私の質問に答えるかのように、朝天の再現行事について話してもらった。二手に分かれて行進が始まり、朝天万歳の丘聖域化公園で合流するというイベント。ガイドさんに聞いて以来気になって、すぐ翌年だったかに朝天を訪れた。今年は3回目だった。

1919年の独立運動から100周年、朝天独自の行事としては27回目の大イベントだった。

訪韓前日の2月27日、学生センターで、水野直樹先生の「三・一運動」の講演を聞いた。2次会は、翌日出発のため参加しなかったが、参加した人からのメールには、出席していた神戸朝日病院の金守良院長の故郷が朝天で、抗日運動再現行事などの話で盛り上がったと書かれていた。「会場の様子がよくわかる写真を写してきます」と返信した。

28日午前の便で済州に向かい宿近くからバスで40分ぐらいかかるが、当日の会場を下見することにした。



快晴に近い天候だったので、公園から南側には 1950 メートルの漢拏（ハルラ）山が見えた。メインになる記念塔の前には仮設のステージもでき、主催者などのテントも 10 張ぐらい並んでいる。後半に行われる記念式会場の体育館は準備中だったが、当日の記念式の冊子をもらった。

下見をして宿に戻ったら、宿の息子さん（辛在卿さん六十歳代）が「明日、私も大学（済州大学）に行きますので、会場まで送っていきましょう」という話になった。辛さんは大阪と済州を行ったり来たりの日常で、大阪在住の時は京都の大学の非常勤の先生、チェジュでは、済州大学で中国語を勉強中。春休みでも毎日大学に行くという人。

3月1日・サミル節当日、辛さんの車で会場には10時に到着、12時に会場の正門で会いましょうという約束をした。

プログラムは、7：40から始まり、二手（新村初等学校と咸徳初等学校）に分かれての大行進は、8：20にスタート、9：10には、メイン会場に到着しているはず。いつか行進が合流するところを見たかったが、3回目も見ることができなかった。

私が会場に着いた頃は、白い道袍（トポ・ツルマギとも言い、今は礼服としてのみ着る）。大極旗印の鉢巻をした青年たち 500 人ぐらいが正門に入ったところの仮設ステージの前に、300 人ぐらいは記念碑のある丘に腰を下ろしていた。そして、全体を取り囲むように 500 人ぐらいが集まっている。予定では観光客も入れて、3千人と書かれている。

ステージでは再現行事が続いている。プロの劇

団の公演・軍楽隊・国樂院の演奏など。「国家齊唱」、「独立万歳三唱」と続く。

広い会場の北西にある追念塔では、式典も行われ、抗日記念館も特別展示をしていた。その後、道路を挟んだ向かい側の体育館では、記念式が始まっていた。以前に参加したので省略した。

正門前で辛さんを待つ間、門横の大掲示板に掛けてある写真をゆっくり眺めた。「済州の三大抗日運動」①は、サミルの 5か月前に、ハルラ山中腹の法井寺で、僧侶を中心に抗日運動が行われ、三・一節の大きなかかけになった。②は朝天の抗日運動（3月21日～24日）③は海女抗日運動だ。



1931～32
海女抗日運動

守口夜間中学に金延寿（ヨンス）さん・金延玉（ヨノギ）さんという話題の豊かな姉妹が在籍していた。2人は朝天里旧左邑が故郷で、妹さんは海女をしていた。1915年・1920年生まれだから、抗日運動で海女たちが立ち上がった1931年～32年は、姉妹はまだ子どもだったか、もう日本に渡って来ていたかもしれないが、生徒会長を引き受けてくれた妹さんには、朝天のDNAが流れていたように感じる。「朝天（チョチョン）」「旧左邑（クジャウップ）」という地名はよく聞いたので懐かしく感じる。25年前の話だ。

朝日病院の金守良院長の故郷と案外近くだったかも知れない。（あとから分かりましたが、金守良院長は、朝天面咸徳里だそうです）続いて、オモニム（お母さん）は旧左邑（現在旧左面漢東）が故郷ですというお返事でした。

また、オモニムは、夜学校・夜間中学でも学習をされたというお話。夜学校と聞いて、沈薰の「常緑樹」の翻訳本を読み、センターで映画を見て、感動の涙を流したことを思い出した。

サミル万歳運動は、なぜ済州城内でなく「朝天」が始まりだったのか。 続きを書きます。